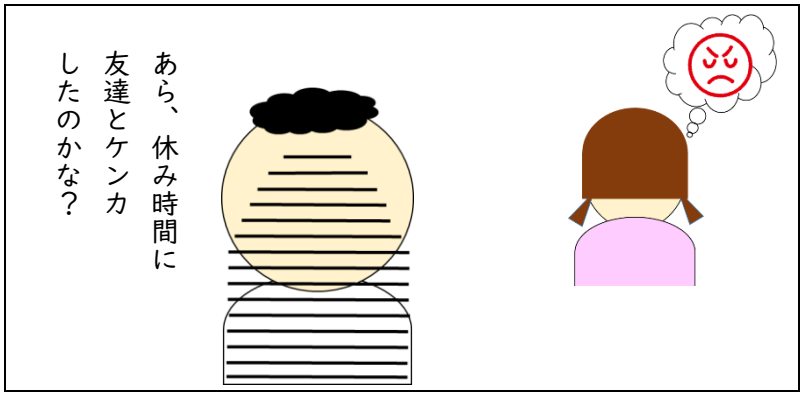
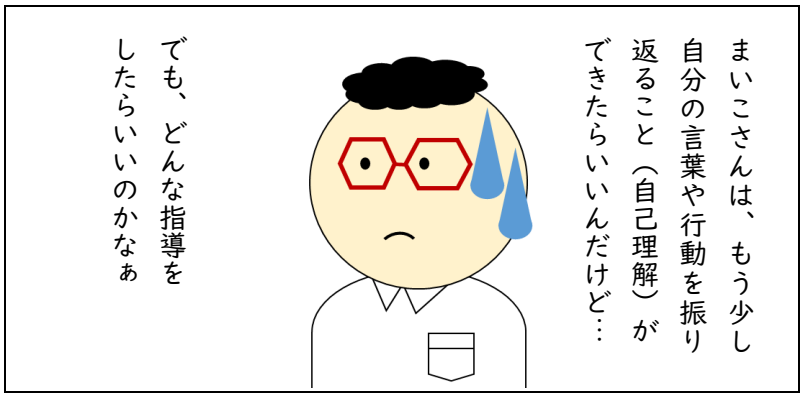
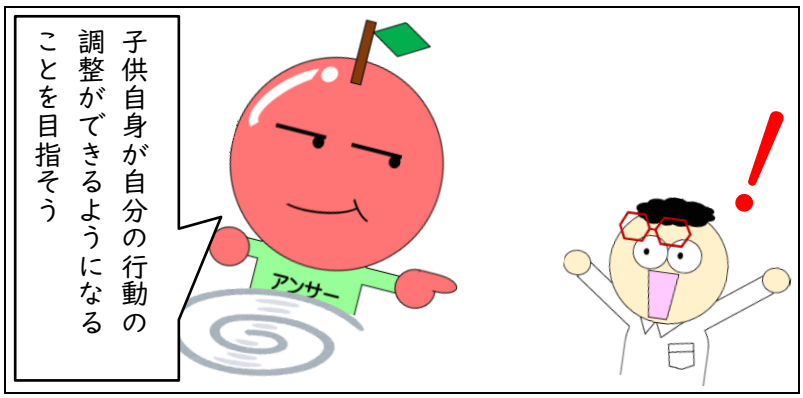
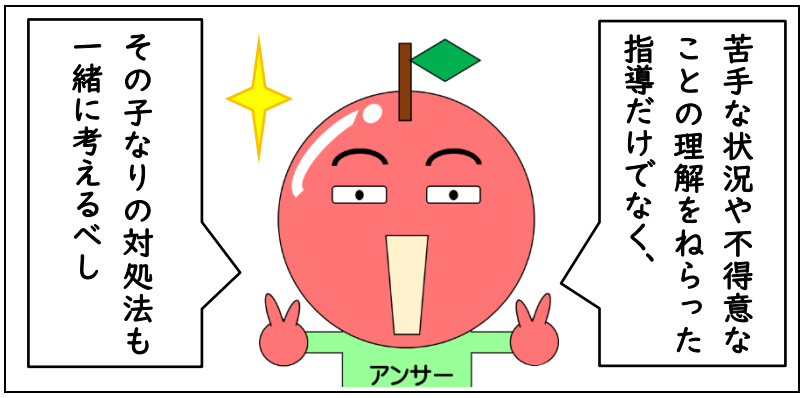
Q14.「自己理解」の力を育てたいのですが、どのような指導をすればよいのでしょうか。









苦手な状況や不得意なことの理解を促し、その子なりの対処法を考える

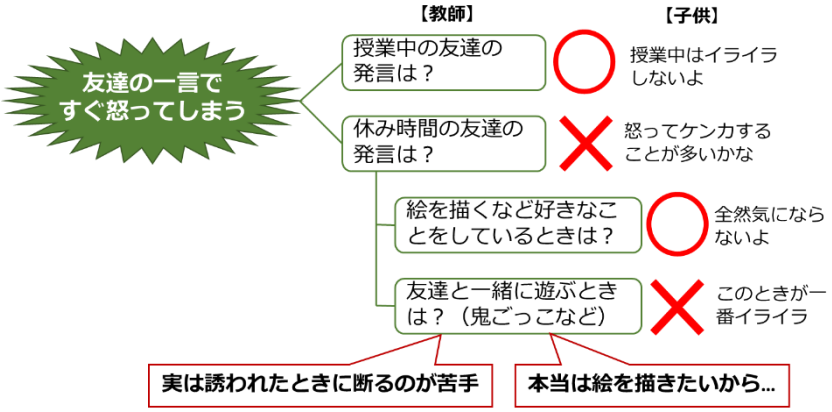
□　自分の苦手な状況や不得意なことについて、実感の伴った理解ができるよう、実際の場面を取り上げて指導します。

友達とのトラブル時に不適切な行動が見られた場合は、その場では一番大切なことを端的に伝え、行動の振り返りは癇癪（かんしゃく）やパニックが落ち着いてから行います。子供の実態によっては、下図のように、「言ったこと」や「思ったこと」を吹き出しで可視化（見える化）した方が理解しやすい場合があります。このように実際の場面を取り上げて、自分の苦手な状況や不得意なことを具体的に考える活動を行うことで、自己理解が深まっていきます。

また、他者の意図や感情の理解が苦手な自閉症のある子供にとっては、「他者が自分をどう見ているか」、「どうしてそのような見方をするのか」などを考える機会にもなります。

□　子供の思考を可視化（見える化）しながら、対処方法を一緒に考えます。

苦手な状況や不得意なことの理解をねらった指導だけで終わらず、それに対する対処方法もセットで考えます。例えば、丁寧に対話しながらプリント等に下図のように書いていき、「なぜ、友達の一言ですぐ怒ってしまうのか」を明らかにします。この子供の場合、「絵を描く」という得意なことを生かして、「遊びに誘われたときに、『今日は絵を描きたいから。ごめん、また誘ってね。』等と上手に断る方法を学ぶ」ことが大事な課題になるでしょう。



【文献】武田鉄郎（2014）：叱らないが譲らない「提案・交渉型アプローチ」の効用．実践障害児教育,Vol.491,10-13.

よく一緒に読まれている Q

Q9　「交流学級でのテスト実施時における配慮について、どう考えればよいのですか？」
Q22「子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいですか？」

目次に戻る